

日本語教育における

「助詞」の導入について

福山寿子

1 はじめに

以前、日本語を一年間（百時間）勉強した英国人学生を対象とした誤用分析を試みたことがあるが、助詞の誤りが最も多かった。しばしば問題となる、動詞、形容詞の活用の誤りに比べても、二倍半程であった。外国人にとって、助詞の使い方がむずかしいのは、ちょうど日本人にとって、英語の前置詞や冠詞の使い方がむずかしいのと同じである。母語話者にとって、当たり前で、問題になりそうにないようなことでも、いざ説明を求められると、なかなか説明しにくいことが多い。学習者にとっては、「使い慣れる」しかないのである。では、使い慣れるためには、どのような学習法、教え方があるのだろうか。そのことについて考えてみることにする。

助詞のなかでも一番誤りの多いのは、格助詞の「に」と「を」、そして「が」と係助詞の「は」である。「に」と言

うべきところに「を」を使い、「を」と言うべきところに「に」を使うのである。これらの誤りやすい点は、つぎの二点であるようだ。

①英語の場合は同じ格（目的格）を日本語のばあいには動詞により使い分けている。

(1) わたしは、テレビを 見ます。 I watch TV.

(2) (わたしは) あした、佐藤さんに 会います。

I will see Mr. Sato tomorrow.

②どちらも使う。

(3) 山に登るのが、好きです。

I like climbing mountains.

(4) 展望台は、山に登った所にあります。

The observatory is where you climb up the mountain.

(5) わたしは、ウィリアムズです。 I'm Mr. Williams.

(6) わたしが、ウィリアムズです。 I'm Mr. Williams.

また英語には、助詞にあたる言葉がないから（前置詞句の場合は、前置詞が助詞の様な役目をしていると言えよう）、助詞なしの誤文も多く見られる。もっとも誤用の多い格助詞「に」と「で」について、その用法をわかりやすくまとめてみたい。その上で、日本語文型について考えてみることにする。

2 英語の5文型

英語話者に初級日本語を教える場合、導入時に一番問題になるのは、助詞である。そこで英語の5文型をそのまま日本語に直してみた。ここで出てくる助詞は、主格(S)の「が」または「が」が省略されて後に残った係助詞の「は」、目的語を表す「を」、授与表現の間接目的語(IO)の「に」、直接目的語(DO)の「を」、第5文型の補語(C)を表す「に」または「と」である。

- | | | |
|------|-------------|----------------------|
| 1 文型 | S V | S が(は) V |
| 2 文型 | S V C | S が(は) C V |
| 3 文型 | S V O | S が(は) O を V |
| 4 文型 | S V I O D O | S が(は) I O に D O を V |
| 5 文型 | S V O C | S が(は) O を C に(と) V |

例文

- 1 A car is running. 車「が」走っています。

2 That man is a teacher. あの人「は」先生です。
3 Tom is washing dishes. トムさん「が」皿「を」洗っています。

4 He gave me a book. 彼「は」私「に」本「を」くれた。

5 We named the cat Jacky. 私たち「は」その猫「を」「ジャッキー」と名付けた。

これらの基本文型に出てくる「が」「は」「を」「に」と「を」を基本助詞とし、基本助詞が使えない場合は、どんな助詞がくるか、それはどんな述語の場合か、を考えてみよう。

3 目的語(対格)に「を」を取らない動詞

a 「に」をとるもの

～に乗る、～に座る、～に入る、(以上は～には場所がくる) ～に会う(～には人がくる)

～になる、～にかわる、～に着替える、

～に夢中だ、～に取り組む

b 「が」をとるもの

～が好きだ、～が嫌いだ、～が上手だ、～が下手だ、(形容動詞)

～が欲しい、～が——したい、

～が要る、～ができる、～がある、～がいる、

4 場所を表す格助詞「に」と「で」

a 「に」

① 目標と決めた場所「に」

～に座る、～に入る、～に乗る、～に急ぐ、～に行く、～に来る、～に帰る、～に置く、～に寝る、～に住む、～にいる、～にある、～に入る、～に止める、～に向かう、～に流れる、～に泊まる、～に浮かぶ、～に残る、～に勤める、～に横たわる、～に沈む、～に落ちる

② 方向性のあるものは、「へ」に置き換えられる。

たとえば、～へ行く、～へ来る、～へ帰る、～へ急ぐ、など。

③ 定着性、持続性を含む動詞ほど、「へ」は使いにくくなり、持続性（存在）のみをもつ動詞、例えば、「住む」「いる」「ある」などは、「に」だけしか使えない。

b 「で」

① その場所にて何らかの行為を営む場合。

～で働く、～で暮らす、～である（催される）、～で踊る

② 「に」と「で」のちがいがい

(1) 姉は 北海道に 住んでいます。

(2) 姉は 北海道で 暮らしています。

(3) 父は いま うちに います。

(4) 父は いま うちで 働いて います。

(5) うちに おおきなテレビが あります。

(6) 今晚 うちで パーティーが あります。

(7) 郊外に 農園を 持っています。

(8) 郊外で 農園を 営んでいます。

5 場所以外を表す格助詞「に」

a 時を示す「に」

① 英語の "on", "in", "at" に相当する（に）

(9) わたしは 休憩時間に コーヒーを飲みました。

(10) 学校は 8時半に 始まります。

(11) 日曜日に どこへ 行きましたか。

② 英語の接続詞 "when" に相当する「～時に」（「に」は省略可）

(12) 私の母は 20歳の時に 結婚しました。

(13) この本は イギリスに行った時に 買ったものです。

③ 慣用句として

～と同時に、一日に二回、五分おきに、

b 理由を示す「に」（英語の "with" または "from"）

(14) わたしは 寒さに 震えた。

(15) 彼は 高熱に 苦しんだ。

(16) 彼は マンガに 夢中です。

c 「〜として」の意味で

(17) おじいちゃんから お年玉に 千円もらったよ。

(18) お土産に ケーキを 買って 帰りました。

(19) お札に この本を さしあげます。

d 動作の目的をしめすために使われる。「〜しに行く」「〜しに来る」「〜しに帰る」「〜しに戻る」などの

動詞とともに使われることが多い。

(20) わたしは 友達を 迎えに 空港へ 行きました。

(21) きょうは 寿司を 食べに 行こうか。

(22) 娘の友達が うちに 遊びに 来ました。

(23) 宿題を 忘れたので うちへ 取りに 戻った。

e 受動態の動作主あるいは物事を表す場合に使われる。

(24) わたしは すりに 財布を さられた。

(25) 雨に 降られて たいへん だった。

(26) 宿題を忘れて 先生に さられた。

f 「〜(人)に〜してもらう」という文における、動作主を表す場合。

(27) わたしは 境せんせいに ピアノを 教えてもらいました。

(28) 母に 手提げ袋を 作ってもらいました。

(29) 姉に 宿題を 手伝ってもらいました。

6 場所以外を表す格助詞「で」

a 動作や動作の過程が起こる「時」を表す。英語では前置詞 *by* や *at* で表される。

動詞は「終わる」「閉まる」「切れる」など終了を表す動詞が来ることが多い。「に」に置き換えが可能である。

(30) このコンサートは 6時で 終わります。

(31) あのスーパーは 8時で 閉まります。

(32) 契約は 1994年の2月で 切れます。

(33) 娘は 来年の3月で 20歳に なります。

b 「——の時間内で」と言う意味を含む。「に」置き換えることは出来ない。

(34) 福岡まで 2時間で 行きます。

(35) このコンサートは 2時間で 終わります。

(36) 靴の修理は どのくらいで できますか。
—— 30分で できます。

(37) 光は 1秒間で 地球を七回り半 する。

(38) もう2週間で 夏休みに なります。
c 行動をするための道具、あるいは手段につけて用い

られる。

(39) 電車で 学校に 通っています。

(40) ナイフで リンゴの皮を むきます。

(41) 原稿を ワープロで 打ちました。

(42) 昨夜 東京にいる娘と 電話で 話しました。

(43) 石鹸で よく 手を 洗いなさい。

(44) 英語で 話さないで 日本語で 話してください。

(45) ガラスで 指を 切りました。

(46) 「――歳の時に」という意味で使われる。

(47) わたしは 23歳で 結婚しました。

(48) 父は 54歳で 亡くなりました。

(49) 22歳で 大学を 卒業します。

(50) 「――の値段で」と価格、値段を表す場合。

(51) 古本屋で この辞書を 二千元で 買いました。

(52) アメリカまで いくらで 行けますか。

f 作られたものの材料または原料を表すものにつく。

英語の "be made from", "be made of" の of や from に当たる。

(51) この箱は プラスティックで 出来ている。

(52) バターは ミルクで 作られます。

g 動作や出来事の原因、理由、動機などを表すときに用いる。「～のために」「～の理由で」と言う意味を

含む。

(53) 今日は 中村君は 風邪で 欠席です。

(54) かれは 不注意で 階段から 落ちた。

(55) 寒さで 手が こごえそうだ。

(56) 彼の父は 癌で 亡くなったそうです。

h 評価の基準を表す。「～によって」という意味合いをもつ。

(57) リンゴの値段は 種類や大ききで ちがいます。

(58) わたしは、洋服を 色とデザインで 選びます。

7 日本語の文型

日本語教育において、特に初級段階では助詞そのものの導入、説明は非常に困難である。だから、助詞を含めた文型として学習者に示し、形として提示するのがよいのではないかと思う。動詞を述語とする、助詞を含めた基本的な文型を、自動詞と他動詞に分けて、まとめてみよう。

(I) 自動詞

① (名)が (動詞)

雨が 降る

日が 暮れる

② (名1)に(名2)が(動詞)

庭に 自転車がある。

庭に ねこがいる。

(名1)は場所を表す名詞で、「に」は存在場所を表す助詞である。

(名2)に物を表す名詞が来れば、「(動詞)は「ある」で、人、動物を表す名詞が来れば「いる」となる。

③ (名1)で(名2)が(動詞)

中学校で運動会がある。

(名1)は場所を表す名詞で、「で」は動作の行われる場所を表す助詞である。

(名2)は動作や行事を示す名詞(例 パーティー、会議など)がくる。

(動詞)は「ある」を使う。この文型では、「ある」は「行われる」という意味で使われる。

④ (名)に(動詞)

熊本に	住む
銀行に	勤める
電車に	のる
いすに	すわる

(名)は必ずしも場所とは限らない。「に」は到着点、動作、行動の状態がある場所を示す格助詞である。

④ (名)に(動詞)

元気に	なる
十倍に	増える

「変わる」「決まる」「変化する」「化ける」「減る」「のぼる」「上がる」「膨れる」「達する」「及ぶ」等の動詞がある。

⑤ (名)へ(動詞)または

(名)に(動詞)

東京へ	行く
家へ	帰る
日本へ	来る
教室へ	入る

(名)は場所を表す名詞である。「へ」は方向を表すが、ほとんど「に」に置き換えられる。他に「向かう」「出発する」「寄る」などの移動を表す動詞がある。

(II) 他動詞A (主に物を対象とするもの)

① (名)を(動詞)

窓を	開ける
テレビを	見る
本を	読む
ミルクを	飲む
ごはんを	食べる
音楽を	聞く

② (名)を(動詞)

庭に	肉を	手紙を	書く
穴を	焼く		
掘る			
空き地に	ビルを	建てる	
ぶどうから	ぶどう酒を	作る	
小麦粉で	パンを	作る	

(名)は作り出す対象物である。この種の動詞は「生産動詞」と呼ばれる。作り出した物が存在することになる場所は「(名)に」で表す。

製品の原料や材料を言うときは「(名)から」や「(名)で」で表す。

③ (名1)に(名2)を(動詞)

部屋に	ステレオを	置く
コップに	ビールを	注ぐ
車に	荷物を	積む
ポケットに	財布を	入れる

動作、行動の直接対象となる物は「を」で表し、間接的な対象となるのは「に」で表す。主に場所を表す語句が

くる。

「を」と「に」を入れ替えることも可能である。

④ (名1)から(名2)を(動詞)

ポケットから	鍵を	出す
壁から	絵を	はずす

動詞は「出す」、「とる」、「取り出す」などである。「(名1)から」は離れるところを表す。

⑤ (名1)と(名2)を(動詞)

この本と	あの本を	比べる
この本を	あの本と	取り替える

(III) 他動詞B (人を対象とするもの)

① 「人」を(動詞)

子供を	しかる
学生を	ほめる

② 「人」に(名)を(動詞)

先生に	解説を	お願いする
社長に	面会を	要求する
友達に	案内を	頼む

⑤ 「人」に／から(名)を(動詞)

彼に／から	本を	もらう
彼に／から	本を	借りる
彼から	本を	受け取る

動詞は、「頼む」「要求する」「願う」「命じる」「依頼する」「そそのかす」「説明する」「強いる」「課す」「勧める」など、意志的な働きかけを表すものである。

③ 「人」に(動詞)

友達に	会う
父に	似る

⑥ 「人」に「人」を(動詞)

知人に	ともだちを	紹介する
友達に	電話を	かける

対面を表す動詞である。他に「出会う」「合う」「挨拶する」「ぶつかる」「触れる」「約束する」「別れる」など。(に)の代わりに(と)も可能

④ 「人」に(名)を(動詞)

あなたに	本を	あげる
あなたに	本を	かす
学生に	本を	配る

⑦ 「人」と(動詞)

彼女と	結婚する
友達と	競争する

この文型の動詞には「話す」「相談する」「約束する」「代わる」「頼む」「見せる」「尋ねる」「払う」「答える」「質問する」「求める」などがある。

その他の動詞に「見合いをする」「愛し合う」「けんか

する」「争う」「戦う」「仲直りをする」「離婚する」「組む」「契約する」「ぶつかる」「握手する」などがあ
る。

(IV) 感情をあらわす述語

① (名)が(述語)

りんごが	好きだ
背中が	かゆい
あたまが	痛い

この文型に入るものとして「嫌いだ」「いやだ」「にく
い」「怖い」「うらやましい」「ほしい」「懐かしい」
「うれしい」「悲しい」「つらい」「残念だ」「恋しい」
などの形容詞、形容動詞がある。

8 まとめ

助詞を、次に来る動詞とともに覚える方法は、かなり効
果的であるが、始めの段階では、どうしても「o-kudasanai」
「o-tabenasu」というような聞き苦しい日本語を発して
しまうことが多い。しかしその段階を過ぎると、いわゆる
「助詞ぬき」の文が表れるのは、ずっと少なくなる。なお
日本語の文型で扱ったのは、単文のみで、「〜(文)」と思

う「〜(文)」と頼む」などの複文は入れなかった。あく
までも初級日本語学習者に対する、助詞の導入を考慮した。

参考文献

- ① 『日本語文法入門』 吉川武時 アルク
- ② 『PARTICLES PLUS』 Atsuko Kawashima HBJ
- ③ 『日本語教師養成通信講座』第3回配本
『日本語の文法(2)』大木隆二 吉川武時 姫野昌子
加藤 弘 小林幸江 アルク
- ④ 『日本語会話30週I』教師指導要綱
長島達也 パナリンガ出版
- ⑤ 『日本語概説』(編)
加藤彰彦 佐治圭三 森田良行 桜楓社
- ⑥ 『英語の論理・日本語の論理』対照言語学的研究
安藤貞雄 大修館書店
- ⑦ 『助詞』外国人のための日本語例文・問題シリーズ7
北川千里 鎌田 修 井口厚夫 荒竹出版
- ⑧ 『現代語の助詞・助動詞』用法と実例―
国立国語研究所 秀英出版
- ⑨ 『外国人のための助詞』―その教え方と覚え方―
茅野直子 秋元美晴 武蔵野書院
- ⑩ 『外国人のための助詞演習』 芥川昭寿 凡人社

平成五年度卒業論文一覧

文学部 国文学科

No.	氏名	研究室	題目
1	池田悦子	江口	「天草版伊曾保物語」の語彙と語法
2	江藤誠子	馬場	一般活用動詞における可能形の「ゆれ」について
3	大原美保子	重松	古今著聞集考
4	大場美保	小櫃	宮沢賢治論「ほんたう」ということについて
5	岡崎安佐子	出口	「冥途の飛脚」封印切について
6	岡田紀子	出口	真鶴の人物像について
7	尾崎雅子	馬場	「シマウ」と「カタヅケル」及び方言「ナオス」
8	甲斐朋子	馬場	副助詞の規定の仕方についての考察
9	金田倫子	稲川	明治期の外来語受容についての比較研究
10	亀井美由紀	小櫃	野上弥生子論
11	河崎薫	馬場	感情の形容詞と動詞について
12	釘田美和	竹原	小野小町—その虚像と実像—
13	古賀麻由子	重松	藤原道長について
14	児玉愛美	重松	徒然草論
15	斉藤なつよ	竹原	「狭衣物語」について—源氏宮考—
16	高木直美	小櫃	宮本輝論—底流に流れる宿命—
17	高倉さとみ	竹原	竹取物語論
18	高村悦子	江口	阿仏尼「うたたね」における仮名遣、語彙論的考察
19	高群敦子	稲川	九州内緒方言の比較研究
20	田上裕紀子	馬場	非漢字系日本語学習者に対する漢字の指導法
21	津川かおり	江口	「御伽草子」の語法研究
22	中川光聡	竹原	「有明の別れ」と「とりかえばや物語」について
23	永田明子	出口	「雨月物語」蛇性の淫の「真女子」について
24	西村香織	重松	鴨長明試論—「方丈記」「発心集」を中心として—
25	西村真由美	出口	雨月物語「吉備津の釜」論
26	乗峰斗希子	竹原	「おもろさうし」にみるニライ・カナイ
27	馬場典子	竹原	落窪物語
28	平井郁代	小櫃	山本有三論

No.	氏名	研究室	題目
29	平山優子	重松	「松」と「松風」
30	本田幸	重松	宗尊親王論
31	前原美和子	重松	「宇治拾遺物語」における人間像
32	松園三千代	江口	「脇狂言之類」における語彙論的考察
33	宮崎路子	竹原	万葉集 七夕の歌
34	宮本陽子	竹原	三島由紀夫「優国」について
35	森山あずさ	江口	仮名草子「身の鏡」の国語学的研究
36	藪中幹子	江口	源通親日記における語彙論的考察
37	山口弥生	重松	平家物語と修羅能
38	山崎久美	出口	「西鶴諸国ばなし」忍び扇の長歌について
39	山村淳子	出口	野ざらし紀行について
40	吉澤多恵子	小櫃	幸田文論
41	和久田麻矢	重松	吾妻鏡の特徴～頼朝・義経の関係を中心に～
42	和田智美	竹原	大江匡衡の詩文と和歌について